

219-1953

日本組織培養学会

昭和61年3月8日発行

会員通信

第58号

発行責任者

沖垣 達(重井研), 常盤孝義(岡山大・医)  
三井洋司(微工研), 大野忠夫(放医研)  
間中研一(独協医大), 喜多野征夫(阪大・医),  
大島 浩(大阪歯大)  
岡山市鹿田町2-5-1 (〒700)  
岡山大・医・癌研病理  
電話 0862-23-7151

### § 幹事選挙について

幹事の任期満了(61年3月31日まで)に伴い、会則に従って、幹事の改選を行います。新しい選挙名簿(同封)を参照の上、正会員の中から40才以上の幹事4名、40才未満の幹事4名の計8名の幹事を投票用紙(同封)に連記し、同封した所定の小封筒(無記名)に入れ、下記宛返信用封筒にてご返送下さい。但し、下記の前会長、現会長、前幹事および現幹事には次期幹事としての被選挙権がありませんのでご注意願います。なお、今期は会長の任期満了期にあたってはおりませんので会長の改選は行いません。

投票の締め切りは3月25日(当日消印有効)です。開票は3月31日に行います。

\* 今期幹事として被選挙権のない方々:

前会長 山田 正篤

現会長 佐藤 二郎

前幹事 梅田 誠, 黒田 行昭, 黒木登志夫, 難波 正義

三井 洋司, 野瀬 清, 大野 忠夫, 菅 幹雄

現幹事 高木良三郎, 奥村 秀夫, 沖垣 達, 松村外志張, 高岡聡子

なお高岡幹事は松村幹事(外国出張)に代わり繰り上げ当選されております。

常盤 孝義, 鈴木 文男, 花岡 文雄, 西 義介

\*\* 宛先(返信用封筒表記の通り):

〒141 東京都品川区上大崎2-10-35

国立予防衛生研究所

ウィルス・リケッチャ部

奥村 秀夫

選挙管理委員 奥村 秀夫・西 義介

### § 幹事会議事報告

日 時: 1985年12月1日(日) 午前9時~午後3時

場 所: 岡山大学・医・癌研・病理

出席者: 佐藤二郎, 高木良三郎, 奥村秀夫, 西 義介, 沖垣 達, 鈴木文男, 高岡聡子,

常盤孝義(欠席: 花岡文雄)

<報告・討議事項>

(1) IACC(International Association for Cell Culture)について

1985年9月10日, 仙台で開催された国際細胞培養会議時に山根毅会員のお世話でIACC設立準備委員会が開かれた。

出席者：(アメリカ) McGarrity, G. J., Ham, R. G., Sato, G., (イギリス) Freshney, R. J., Griffiths, J. B., (フランス) Adolphe, M., (日本) 佐藤二郎, 高木良三郎, 奥村秀夫, 沖垣 達, 山根 纈., (オブザーバー) オーストラリア, ニュージーランド地区から McAuscian, B.

議 題：アメリカ側で起草した規約原案の内容の討議を中心に、諸国の IACC 設立に関する意見と自国の現状及び将来の展望などについて報告が行われ、意見交換が行われた。

日本組織培養学会としては、1984年大会(高知)での総会討議及びその後の幹事会での討議内容をもとに意見を述べた。討議の主な内容は、1) 年会費は1人当り米ドルで2ドルが適当か。2) 賛助会員の会費。3) 幹事は350名以上の会員を有する学会は3名の IACC 幹事を出す(原案通り)、それ以下は1名。4) 会長、副会長、次期会長、庶務及び会計の各幹事選出法、などに活発な討議が行われた(詳細を知りたい方は佐藤会長に問い合せて下さい)。これまでの諸外国との話し合いと国内での討議結果から日本組織培養学会幹事会としては IACC 参加にともなう諸事項について以下の事を決定した。

- 1) IACCに正式参加する。(1986年発会を予定)
  - 2) IACC 幹事3名の選出は佐藤二郎会長に一任する。
  - 3) IACCの次期幹事会は1986年6月のアメリカ組織培養学会の時期に合わせて行うことが適当。(アメリカ側はもっと早い時期を希望していたが)
  - 4) 規約草案については今までの話し合いで大筋合意を得たが、細部の討議は佐藤会長がアメリカ側と続ける。
  - 5) IACC参加によって生じる学会の支出増は他の学会活動をも考慮して、国内の年会費の増額によってまかなう。(後述)
- (2) 学会誌「組織培養研究」のあり方について。

編集幹事から会誌発行に関する現状報告と問題点が提起された。主なものは、1) 編集内容の再検討即ち春刊行は学会抄録集が中心で、秋刊行がさらにその一部の内容を詳しくという今回(1985)の編集は2回発刊の独立性が失われ、再検討の必要ありとの意見。2) 発行に際しての経費及び会計処理上の問題を整理する必要あり。以上の2点については幹事一同意見の一致をみた。種々の案が検討されたが、発行方法について改正するということでの結論は出たが、具体案は会長中心に検討を継続することになった。

(3) 名簿作成について

高岡幹事から経過説明があり、発行は3月の幹事選挙には間に合う。

(4) 選挙管理委員の選出

従来の方法にならない、1986年の幹事選挙は現在の庶務幹事(奥村委員長、西委員)が選挙管理委員に選出された。

(5) 細胞銀行について

細胞銀行の設立の国内状況について、経過と現状の報告があり、そのあり方の国内外の評価や希望などについて意見交換が行われた。現状分析では、1) 日本国内の細胞銀行は乱立傾向にある。2) 細胞株樹立経験者の参加が極めて少ない。3) 細胞利用希望者中心に設立されている傾向が強いのもっと細胞培養 Specialistの協力体制を考慮すべきである。4) 現在の日本国内の

細胞銀行の取扱い内容は外国での樹立細胞株が中心であり、国際的に批判の対象になっている。などが報告され、今後学会としても積極的に改善に努力する必要があるとの意見も強く出された。現実に、アメリカのATCCの staff や Dr. McGarrity, G.J. などから

日本における細胞銀行の現状や計画などについて口頭や文書による批判や意見が学会関係者に寄せられている。これらの現状は、国際的信用の面からも憂慮されるべき課題であり、日本組織培養学会として関係各位に正式に文書を出して改善に努力することも討議された。

(6) 次期学会について(1986年)

奥村世話人より次期学会は7月13日午後～15日まで東京で開催する旨報告された。いくつかの workshop をくむ予定である。

(7) 次々期学会について(1987年)

東大医科研から世話人を選ぶことに決定。佐藤会長が(黒木、関口会員)と連絡をとって決めることになった。

(8) 会計の中間報告について

高岡幹事から中間報告と提案がなされた。1) 前述のように会誌「組織培養研究」に関する発刊経費の取扱い方、主に広告費の会計上の取扱い方法を再検討すること、2) 会誌及びIACC参加などを考慮すると年会費を1人当り1500円ぐらい増額させる必要があること。これらの点に関しては今後会誌の発刊問題を含めて再検討することになった。

(9) その他の事項

山根 稔会員(東北大、抗酸研)から、国際細胞培養会盟(1985年9月開催)の運営費剰余金のうちから学会に寄附したい旨申し出があったことが、佐藤会長から報告された。ただし、当寄附金については山根会員からの使用条件などがあり、その内容について検討されたが、寄附の厚意に関しては幹事一同感謝の念で受けとめたが、使用条件については意見の一致をみなかった。結論として各幹事の意見をまとめて佐藤会長が山根会員と話し合うことになった。

(西 義介, 奥村秀夫)

## § 会長報告

昭和61年1月29日、金 五百万円を日本組織培養学会の若手研究者の奨励金に当てる主旨のもとに山根稔氏より日本組織培養学会に対して寄附いただきました。

運用に関しては会長に一任される旨申出をいただき有難く頂戴いたし、取り合えず特別会計の中に入れていただきましたので会員の皆様へ報告いたします。

昭和61年2月25日

日本組織培養学会会長 佐藤 二郎

## § 第7回国際無脊椎動物組織培養学会議の開催について

国立遺伝学研究所 黒田行昭

第7回国際無脊椎動物組織培養学会議(7th International Conference on Invertebrate Tissue Culture)が、昭和62年5月10日(日)～16日(土)の7日間にわたって、伊豆・大仁ホテルで開催されることになりました。この会議では、昆虫をはじめとする節足動物や、軟体動物、棘皮動物、線形動物、腔腸動物など無脊椎動物の細胞や組織を体外で培養し、遺伝学、発生学、細胞生物学などライフサイエンスの基礎的な研究とともに、デング熱や黄熱病など昆虫が媒介するウイルス疾患の予防、農業害虫・衛生害虫など種々の有害昆虫の駆除のための対策、組換えDNAや細胞融合などを使ったバイオテクノロジーの研究への大きな可能性をもった数多くの研究の成果が発表されます。

この国際会議は1962年フランスで第1回会議が開催され、ついでイタリア、チェコ、カナダ、スイス、アメリカなどこれまで主として欧米各国を会場に、4年ごとに開催されてきました。前回アメリカのフロリダで開かれた第6回会議の際、わが国におけるこの分野の研究がきわめて高い水準にあることが各国の研究者に認められ、第7回会議を日本で開催することが満場一致で可決されました。この会議は日本組織培養学会および日本細胞生物学会の後援で、国際無脊椎動物組織培養学会連合(事務局カナダ)と第7回国際無脊椎動物組織培養学会議組織委員会が主催して開催されます。

哺乳動物の組織培養に比べて、無脊椎動物の組織培養は最近急速に進展して参りましたが、その技法や応用などの面でまだ未開拓の分野も多く、それだけ今後への期待も大きいともいえます。現在、無脊椎動物の組織培養を実際やっておられない方も含めて、この分野に少しでも関心や興味のある方は、できるだけ多数ご参加くださいますようお願いいたします。会議の概要はつぎのようです。

### 1. 開催場所および期日

場 所：大仁ホテル(TEL. 0558-76-1771)

(〒410-23 静岡県田方郡大仁町吉田1178)

期 日：昭和62年5月10日(日)～16日(土)

### 2. 会議の主要課題

- 1) 培養無脊椎動物細胞における細胞分化と遺伝子発現
- 2) 培養無脊椎動物ホルモンの産生と作用
- 3) 培養無脊椎動物細胞を用いたウイルス、リケッチアの増殖機構
- 4) 培養無脊椎動物細胞を用いたワクチンの大量生産
- 5) 病源体産生のための昆虫細胞株
- 6) 細胞融合と遺伝子移入
- 7) 新しい無脊椎動物細胞株の確立
- 8) 免疫系およびその他の防御の機構
- 9) 無脊椎動物細胞の栄養要求性と無血清培養

## 10) 無脊椎動物細胞培養の新技法

### 3. 会議日程

月 日	午 前	午 後	夕
5月10日(日)		登 録	
11日(月)	開会式・総会	シンポジウム	レセプション
12日(火)	研究発表	研究発表	ワークショップ
13日(水)	エクスカージョン		
14日(木)	研究発表	研究発表	ワークショップ
15日(金)	研究発表	研究発表	パンケツト
16日(土)	総会・閉会式		

### 4. 会議事務局

〒411 静岡県三島市谷田1,111

国立遺伝学研究所内

第7回国際無脊椎動物組織培養学会議

会 長 黒 田 行 昭

TEL. 0559(75)0771 (内線 262)

## § 関連学会報告

### “日本口腔組織培養研究会”報告

第22回日本口腔組織培養研究会は1985年12月13,14日に佐藤光信教授(徳島大学)のお世話で徳島大学において開催された。当日は約60名の参加者があり、一般講演は各種細胞の分離培養法から細胞に対する薬剤の影響、そして歯科材料に対する細胞毒性の評価法まで多岐にわたった。さらに特別講演として竹田義朗教授(徳島大学歯学部長)が「インスリン作用促進因子について」を講演された。

近年、本研究会には毎回60名前後の参加者と20題前後の発表があり、創立時に比べて会員数や活動状況も着実に進展してきている。今後、本研究会をより充実したものへと発展させるためにも、口腔領域での組織培養研究に興味を持たれる多数の研究者の参加を希望します。

なお、1986年度の研究会は佐藤温重教授(東京医科歯科大学, 1986年12月6日の予定)、1987年度は松本昌世教授(愛知学院大学)のお世話で開催されることになった。詳細については逐次会員通信にて報告する予定です。

日本口腔組織培養研究会事務局

〒540 大阪市東区京橋1-47

大阪歯科大学 歯科理工学教室

TEL. 06-943-6521 (内線 271)

担当 大 島 浩

## § Post - Doc. Position

下記のように、コロラド州立大学の Elkind 博士が研究者（留学生）を募集しています。関心のある方は至急ご連絡下さい。詳細な内容をお伝えします。

### Research Associate

A Research Associate is needed for long-term studies of the mechanism of neoplastic transformation *in vitro* under the direction of Dr. M. M. Elkind. Specific experience in radiation-induced oncogenesis would be useful but not essential. A doctorate degree in cell or molecular biology, radiobiology, biophysics, biochemistry, or related specialties is preferred but may be replaced by a master's degree and comparable experience in studies with cultured mammalian cells relative to cell killing, mutagenesis, and/or neoplastic transformation. Closing date for applications is 30 April 1986. Salary commensurate with education and experience. Send resume, bibliography, and three references to:

Dr. M. M. Elkind, Chairman  
Department of Radiology and Radiation Biology  
Colorado State University  
Fort Collins, Colorado 80523  
U.S.A.

連絡先：〒920 金沢市宝町13番1号

金沢大学薬学部放射薬品化学教室

鈴木文男

(電話) 0762-62-8151 (内) 4863

## § 編集後記

立春とは名ばかりで、日本各地では、2月としては異例の大雪に振りまわされましたが、漸くぬるんで来た今日この頃です。

会員通信、春号をお届けいたします。本号には、幹事選挙の案内、幹事会議事録など重要な内容が掲載されています。投票用紙、被選挙人名簿、返信用封筒および会員名簿を併せて同封いたします。

( T. T. & T. O. )